

環七地下河川計画検討委員会（第1回） 議事要旨

日時：令和8年3月4日（水）

主な意見は以下のとおり。

- ルート検討については、地下利用に伴い上部の土地利用が制限されることがあるため、上部への影響を考慮するとよい。
- 技術的な検討の参考にするため、海外の類似事例の情報収集をするとよい。
- 降雨の条件については、集中豪雨だけでなく数時間降り続く線状降水帯のような雨など、様々なパターンも考慮するとよい。
- 流水は水理特性として、トンネルの曲りの形状により損失が変わってくる。水理模型においては、このことを踏まえて、形状の再現する必要性の有無を検討するとよい。
- 完成後は長期間使用することになるため、運用を開始している神田川・環状七号線地下調節池等の泥の堆積状況を参考にして、メンテナンスしやすい構造を検討するとよい。
- 完成後の利用については、施設の役割や効果に関心を持ってもらうためにインフラツアーを実施するなど、多目的な活用方法を検討できるとよい。
- 東京湾への放流に伴う東京湾の水質予測については、放流先周辺への変化を含めて検討するとよい。
- 水理検討については、模型実験の様子を見ることで、規模感や水理挙動を俯瞰的に把握することができるため、実験の現場視察を実施してほしい。

以上